

病院名 福島県立医科大学附属病院
都道府県名 福島県

都道府県の情報

都道府県内の総人口	1,812,061	人
がん死亡者数 (%)	6,367	人 (24.9 %)
高齢化率	32.4	%

令和3(2022)年度

【福島県立医科大学附属病院】

- 特徴：県内唯一の大学病院、特定機能病院
- 診療科及び病棟数：39診療科、20病棟
- 許可病床数：778床（一般713床、精神49床、結核14床、感染2床）
- 1日平均入院患者数： 570名
- 1日平均外来患者数：1,579名
- 一般病床利用率： 73.3%
- 一般病床平均在院日数：12.5日



福島県のがんを取り巻く現状

■年間罹患数

[地域がん登録(令和元年)]

男女 158,862人 男性:9,224人 女性:6,638人

部位別罹患率[上位5部位]

①胃(16.1%)、②大腸(15.8%)、③肺(12.1%)

④前立腺(10.0%)、⑤乳房(8.1%)

■がんによる死亡者数(令和3年)

年間6,367人死亡(男性3,799人、女性2,568人)

がんは原因別死亡の24.9%を占める

■死亡率(人口10万対)

353.9 (令和3年) 年々上昇している

■年齢調整死亡率(75才未満)(人口10万対)(令和2年)

男女 73.4(全国 69.6) 全国を上回っている

男性 90.8(全国 85.6) 、 女性58.0(全国 54.9)

がん診療連携拠点病院の情報

◎都道府県がん診療連携拠点病院	1	施設
福島県立医科大学附属病院(県北地区)	39診療科	778床
●地域がん診療連携拠点病院	6	施設
・太田西ノ内病院(県中地区)	38診療科	1,086床
・総合南東北病院(県中地区)	32診療科	461床
・白河厚生総合病院(県南地区)	31診療科	471床
・会津中央病院(会津地区)	30診療科	713床
・竹田総合病院(会津地区)	27診療科	1,097床
・いわき市医療センター(いわき地区)	32診療科	700床

病院名 福島県立医科大学附属病院
都道府県名 福島県

がん診療病院の情報

●地域がん診療連携推進病院

- ・坪井病院(県中地区)
- ・福島労災病院(いわき地区)

【県内がん診療連携拠点病院、
及びがん診療連携推進病院】



2 施設

9診療科	178床
21診療科	399床

- ①福島県立医科大学附属病院
- ②太田西ノ内病院
- ③総合南東北病院
- ④白河厚生総合病院
- ⑤会津中央病院
- ⑥竹田総合病院
- ⑦いわき市医療センター
- ⑧坪井病院
- ⑨福島労災病院

都道府県におけるがん医療の特性

- ・平成23年の東日本大震災以降、県内の医療機関や医療従事者数が減少している。
- ・面積が広い県内に、がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院がない二次医療圏が存在する。
- ・空白の医療圏の患者の治療を各拠点病院が担っており、各病院の負担が大きくなっている。患者側も約2時間の移動時間をかけて治療に通う者もあり、治療継続に相当な負担を負う状況にある。

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

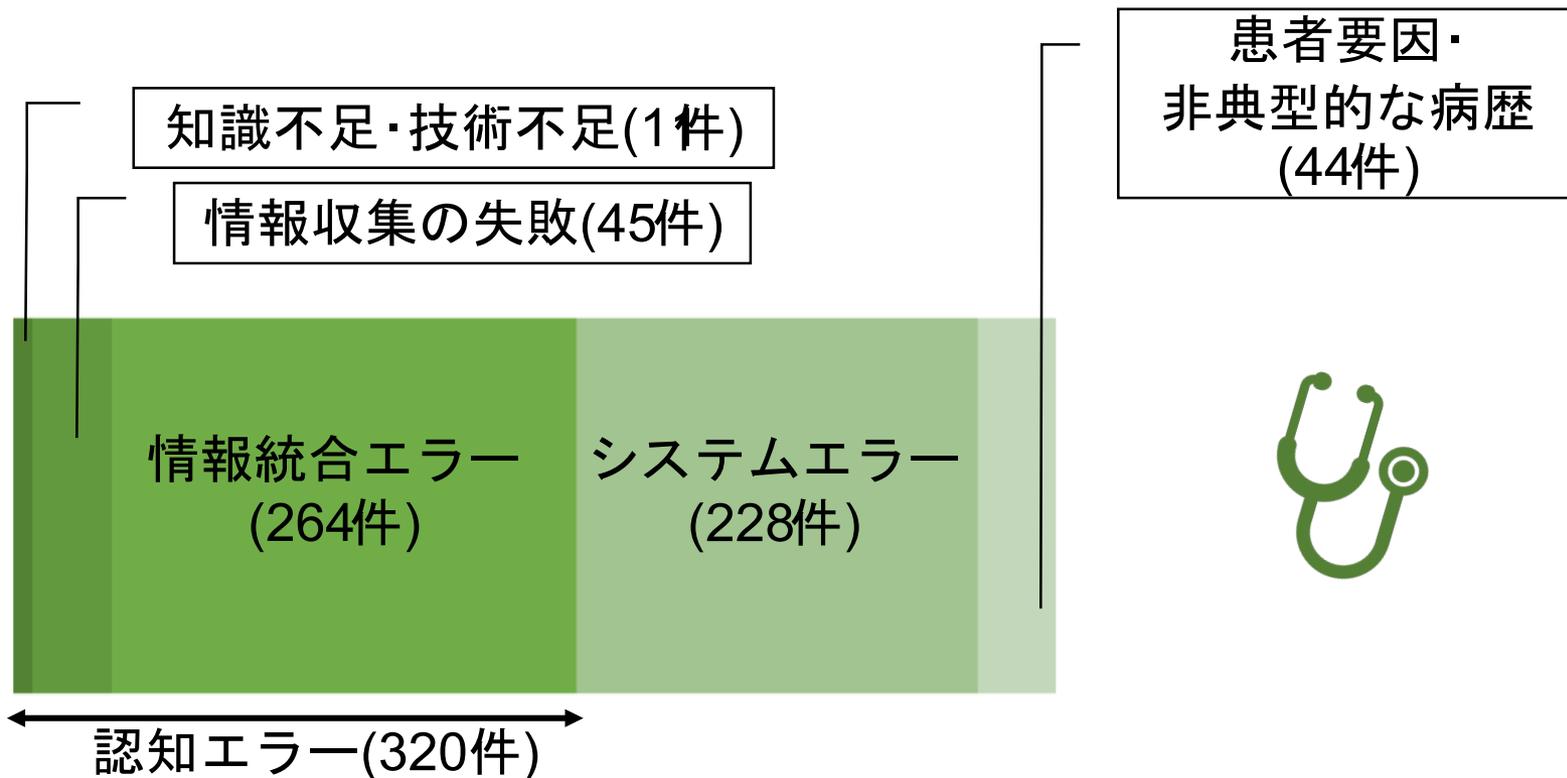
【現状】

- ・現場の職員が、県内のがん化学療法に関する状況を把握できていない。がん診療連携協議会の活動を把握できていない。
- ・県内全体のがん化学療法の現状、課題を共有、協議できる仕組みがない。

【課題】

- ・連携強化(顔のみえる関係づくり)
- ・均てん化
- ・職種の質向上
- ・福島県がん診療連携協議会の部会への参加等

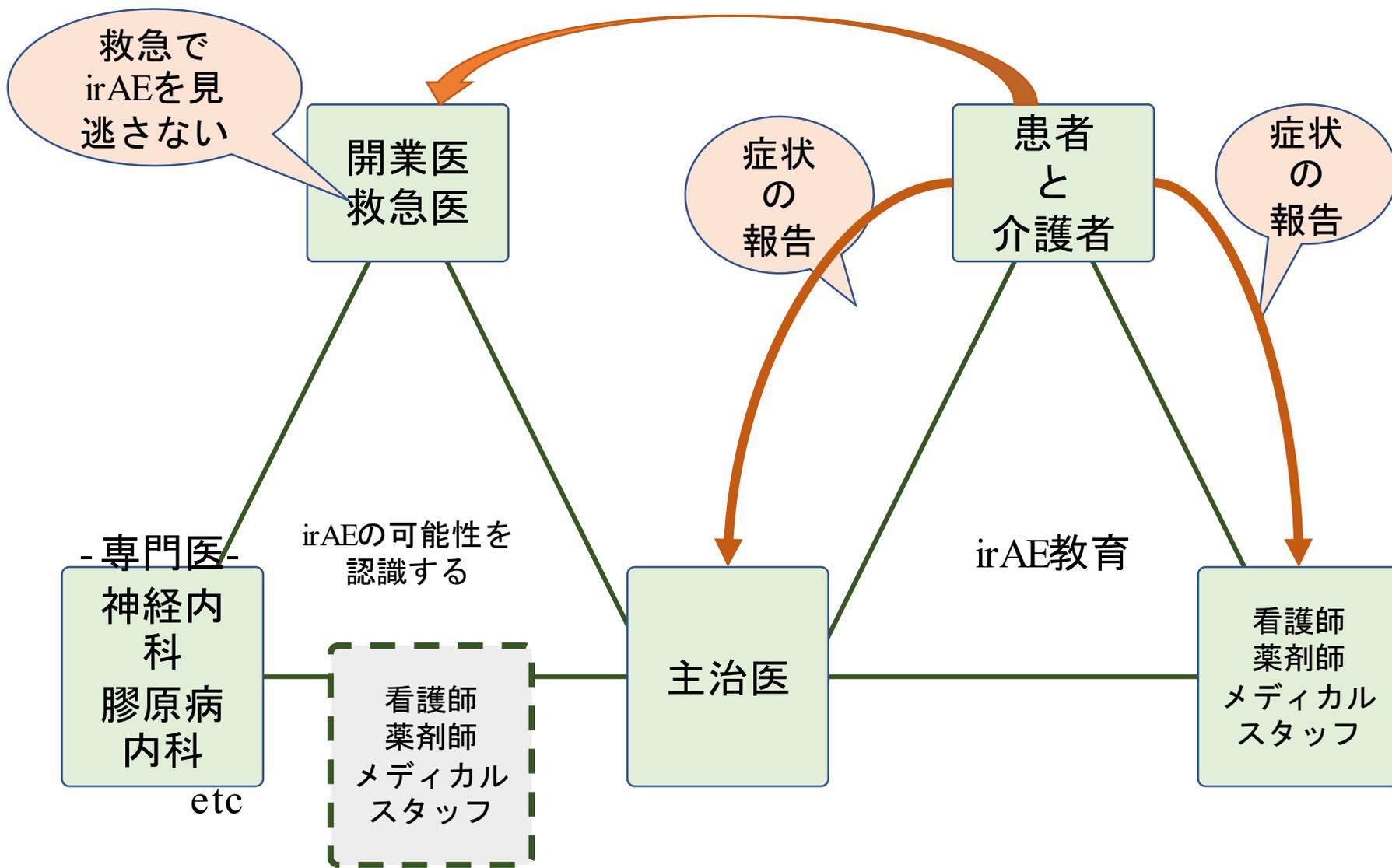
診断エラーにおける要因分析



知識不足・技術不足によるものは全体のわずか1.9%
認知バイアスやシステムの問題が大きく影響する可能性

熟練した医師であっても診断エラーを
回避できない

irAE対策のために必要なコミュニケーション



研修の概要

【タイトル】

irAEを地域でマネジメントする ～甲状腺機能障害のマネジメント～

【目的】

- ・当院のマニュアルをベースに連携を図ることができる
- ・頻度が高いもの(甲状腺機能障害)から学ぶ
- ・多職種の役割を分かるようにする

【対象者・人数】

福島県内の2次医療圏の医療従事者(医師、看護師、薬剤師、MSW等)
40名程度(ハイブリット開催)

【目標】

一般目標 (GIO)

各職種の役割を明確にしながら、irAEの甲状腺に関する知識を身につける。

到達目標 (SBO)

- ・各所属に戻って、所属スタッフへ伝達・共有することができる。

プログラム

1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
13:00	13:15	15分		オリエンテーション
13:15	14:00	45分	講義1 腫瘍内科医師	irAEの一般的な知識
14:00	14:45	45分	講義2 糖内代医師	irAE甲状腺機能障害について (ガイドライン、診療の流れ)
14:45	15:00	15分		休憩
15:00	15:45	45分	講義3 薬剤師	福島県立医科大学附属病院のirAE に関するマニュアルについて
15:45	16:45	60分	パネルディス カッション	各職種のかかわりについて (医師、薬剤師、看護師、MSW)
16:45	17:00	15分		総評、アンケート

研修の評価

(※企画→実施→結果の順で評価した方が検討しやすいと思われたため、下記で記載しました。)

【企画評価】 研修後のアンケート

(対象者は他者「参加者」と運営側「企画者」でアンケート内容を分ける)

- ・参加者に対して→明日からの臨床に生かせる内容だったか。
 - ・企画者に対して→今後テーマとしてどのようなirAEを取り上げるべきか。
- 研修スタイルは適切だったか等の反省点・修正点について挙げてもらう。

【実施評価】

研修後にvoting形式でアンケート

(「リアルタイムオンラインアンケート」などのツールを使用して、結果をスライドでリアルタイムで開示し、参加者にフィードバックする)

質問内容: ①時間配分、②開催時期、③内容が十分理解できたかetc

【結果評価】

参加者への研修前アンケートと研修後アンケート結果の比較

質問内容: ①講習の内容を所属スタッフに伝達できたか(研修会の形式にこだわらず、日常業務内で同職種・他職種に共有することができたか)

②irAE甲状腺障害に対する理解度

講義1 irAEの一般的な知識

日時 ○月 ○日(○) 13:15~14:00
場所
セッティング 現地開催と発表のライブ配信を同時に行うハイブリット開催形式
担当 発表者:腫瘍内科の医師
用意するもの 会場、発表者PC、プロジェクター、マイク、web参加者は個人PC

【学習目標】

免疫関連有害事象(irAE)の一般的な知識を理解する。

【事前準備】

ライブ配信の接続テスト、講義スライド、web参加者へURLの事前送信

【会場準備】

会場参加者が使用する椅子、机

【すすめ方】腫瘍内科医師が会場でスライドを用いて講義を行い、ライブ配信を行う。講義後に質疑応答の時間を設ける(会場参加者からは直接、web参加者からはマイクをONにする、もしくはチャットで質問を受け付ける)。

【セッションでの留意点】ライブ配信中にweb参加者のマイクがONにならないようにするなど接続管理が必要。

講義2 irAE甲状腺機能障害について

日時 ○月 ○日(○) 14:00~14:45

場所

セッティング 現地開催と発表のライブ配信を同時に行うハイブリット開催形式

担当 発表者: 糖尿病内分泌代謝科の医師

用意するもの 会場、発表者PC、プロジェクター、マイク、web参加者は個人PC

【学習目標】

irAEのうち甲状腺機能障害についてガイドラインや実際の診療の流れを理解する。

【事前準備】

ライブ配信の接続テスト、講義スライド、web参加者へURLの事前送信

【会場準備】

会場参加者が使用する椅子、机

【すすめ方】糖尿病内分泌代謝科の医師が会場でスライドを用いて講義を行い、ライブ配信を行う。講義後に質疑応答の時間を設ける(会場参加者からは直接、web参加者からはマイクをONにする、もしくはチャットで質問を受け付ける)。

【セッションでの留意点】ライブ配信中にweb参加者のマイクがONにならないようにするなど接続管理が必要。

講義3 irAEに関する 福島医大病院のマニュアルについて

日時 ○月 ○日(○) 15:00~15:45

場所

セッティング 現地開催と発表のライブ配信を同時に行うハイブリット開催形式

担当 発表者: 化学療法センターの薬剤師

用意するもの 会場、発表者PC、プロジェクター、マイク、web参加者は個人PC

【学習目標】

irAEに関する福島医大病院のマニュアルについて、内容と実際の運用の流れを理解する。

【事前準備】

ライブ配信の接続テスト、講義スライド、web参加者へURLの事前送信

【会場準備】

会場参加者が使用する椅子、机

【すすめ方】化学療法センターの薬剤師が会場でスライドを用いて講義を行い、ライブ配信を行う。講義後に質疑応答の時間を設ける(会場参加者からは直接、web参加者からはマイクをONにする、もしくはチャットで質問を受け付ける)。

【セッションでの留意点】ライブ配信中にweb参加者のマイクがONにならないようにするなど接続管理が必要。

パネルディスカッション 各職種のかかわりについて

日時
場所

○月 ○日(○) 15:45~16:45

セッティング 現地とwebから参加可能なビデオ会議形式

担当 司会1名、パネリスト4名(医師1名、看護師1名、薬剤師1名、MSW1名)

用意するもの 会場、プロジェクター、マイク、web参加者は個人PC

【学習目標】医師、看護師、薬剤師、MSWなど各職種の役割について理解する。

【事前準備】 接続テスト、web参加者をビデオ会議のチームメンバーへ招待

【会場準備】共有ホワイトボードを操作するためのPC
(司会1台、各パネリストに1台、現地参加者用に20台)

【すすめ方】各職種が1名ずつパネリストとして、役割についてディスカッションを行う。パネリストは視覚的ワークスペースMiro等のビデオ会議ツールを使用する(具体的には、共有ホワイトボードに書き込みながら、考えを視覚化し共有する)。司会者は参加者にも発言を促し、参加者はだれでも共有ホワイトボードに自身の考えを追記することができる(現地参加者はあらかじめ会場に準備されたPCで共有ホワイトボードに追記、web参加者は個人PCから追記を行う)。

【セッションでの留意点】情報が錯綜しないように、共有ホワイトボードに書き込む前には必ず発言して意図を明確にするように促す。